



# 碧南ロータリークラブ週報

第2840回例会 平成29年9月27日(水)

●会長 木村 徳雄

2017-2018 年度 国際ロータリーのテーマ

●幹事 角谷 信二

●会場監督(SAA) 長田 和徳

■例会日 毎週水曜日 12:30

■例会場 碧南商工会議所ホール

■事務局 碧南商工会議所内

〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90

TEL<0566>41-1100

FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>

E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)



ロータリー:  
変化をもたらす

■会報委員 貝田隆彦・黒田泰弘・岡島晋一

## ●齊 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

## ●本日のお弁当

小伴天

## ●本日のお客様

(株)サポートジャングルクラブ 代表取締役社長 吉野 朝様

## 会 長 挨拶

皆さん、こんにちは。

今週の 25 日に碧南商工会議所に辛坊治郎さんがお見えになり、400 人近くの方がお見えになりました。以前は読売テレビのアナウンサーで、現在はキャスターをやられています。ここで私の拙い雑学で、「アナウンサーとキャスターは何が違う



木村徳雄会長

の？」ということです。基本的にはあまり変わりはないのですが、真面目にニュースを伝えるのだけではなく、テレビ番組で司会や進行をするのがアナウンサーで、ニュースやお天気などの番組の一部を専門的に仕切ってやるのがキャスターです。

こんなことを言っていると無駄な話かなという部分がありますが、ここでまた「油を売る」という言葉がどうして暇つぶしになるのかというのを少しだけ話させていただきます。江戸時代に髪のお油を売る商人が量り売りをする時に黙っているとお客さんに対して大変失礼なので、そこでベラベラと世間話をしていたというのが語源です。

そろそろ私の持ち時間がきましたので、来週をお楽しみにということで、お話を終わります。ありがとうございました。

## 幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 他クラブの例会変更は幹事報告書の通りでございます。
- ・ 本日、皆様方のお手元に市民ふれあいフェスティバルチャリティーバザー販売品ご寄付のお願いということで、配布させていただきました。10月18日と24日の例会時に集めたと思いますので、よろしくお願い致します。
- ・ 次週の10月4日でございますが、第4回の理事会を例会終了後に201号室で開催致します。関係各位、よろしくお願い致します。
- ・ 本日、関係者の皆様に第1回の次年度指名委員会の日程調整ということで、配布させていただきました。10月3日が締め切りでございますので、事務局まで回答をよろしくお願い致します。
- ・ 本日、例会終了後に201号室で60周年記念実行委員会を開催致します。関係各位、出席の程よろしくお願い致します。



角谷信二幹事

## 委 員 会 報 告

### <出席奨励委員会>

総会員数 68 名 (内出席免除者 16 名の内出席者 9 名)出席者 52 名	
出席対象者 52/61 名	出席率 85.25%
欠席者 16 名(病欠者 0 名)	前々回修正出席率 100%

※十週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

### <ニコボックス委員会>

- 角谷 信二君 久々に車で富山迄出張しました。5 6 個のトンネルはさすがにきついです。次回は電車にします (笑)
- 新美 宗和君 9月24日(日)第34回歌と舞の祭典が盛大に開催され、多くのファンに声援をいただきました。来年は35回目となりますので、旧倍のお力添えをよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
- 竹中 誠君 運転免許証更新の高齢者講習に行きました。一番若かったです。
- 荻谷 賢治君 本日、卓話の講師 吉野 あさひ様を御紹介させていただきます。

### 「アマゾン熱帯雨林が抱える社会課題とソーシャルビジネス」

㈱サポートジャングルクラブ 代表取締役社長 吉野 朝様



吉野 朝様

皆さん、こんにちは。只今、ご紹介頂きました吉野朝と申します。今日は 30 分間という時間ではございますが、少しでも皆さんの心に残るような話ができればと思っております。若輩者ですが、僭越ながらお話をさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い致します。

まずは、簡単に自己紹介をさせていただきます。生まれは熊本県天草市で、幼少期に家族と共にブラジルへ移住しました。アマゾナス州プルス国立公園パウイニ自治区での 5 年間の移住期間を経た後、帰国し、大分県別府市に移住しました。2001 年に父であり初代社長を務めた吉野安基良によって株式会社サポートジャングルクラブが設立され、2015 年に同社代表取締役及び特定非営利組織 NPO グリーンハート理事に就任しました。現地教育支援プロジェクトを通して、アマゾン熱帯雨林保護活動に従事しております。

それでは、本題に入ります。最近になってよくソーシャルビジネスという言葉が聞かれるようになりました。1960 年代に始まった言葉と言われているのですが、あまり知られていませんでした。グラミン銀行というのを皆さんご存知でしょうか。バングラデシュのムハマド・ユヌスさんという方が、貧困層向けに始めた民間金融機関でございます。これが社会参加を後押しするビジネスモデルとその実践が評価され、2006 年にムハマド・ユヌスさんはノーベル平和賞を受賞されました。この活動から、社会課題解決を目的とした企業活動またはその企業活動をしている主体の事をソーシャルビジネスと言います。もちろん、企業活動ですから持続性が不可欠です。また、寄付金や補助金に依存しておらず、ビジネススキルとしても確固たるものを持っております。

実際にアマゾン熱帯雨林がどんな社会課題を抱えているかということの説明したいと思います。アマゾンはブラジル、ペルー、パラグアイ、コロンビアなどの南米各国に跨る世界最大の熱帯雨林です。大きさが約 700 万平方 km で日本の約 22 倍になります。この地域が抱えている問題が 4 つあります。まず、よくイメージされる熱帯雨林の破壊があります。毎年、日本の四国くらいの面積の森がアマゾンでなくなっていると言われております。このペースでいくと 2030 年には全体の森の 60%が失われる計算になります。現地にお金や文化が入ってきて、生活の中でお金が必要なシーンが増え、お金を稼ぐ手段がないので、樹を切り、段々と切る樹がなくなったら焼いて、牛を放って牧場にするということが当たり前起きております。こういった所が熱帯雨林の破壊の最大の原因だと言われております。続きまして、伝統文化の消失がありまして、何かと言いますと、お金を稼ぐ手段が森の中にないので、出稼ぎに行きます。そうすると森の中に男手がなくなり、今まで傳承されていた文化や考え方、ライフスタイルが失われております。その結果、貧困層の拡大や高い犯罪率と治安問題が森の周りで起こっております。

これに対して私たちは1つの提案を1992年からしてきました。コパイバ マリマリという彼らが生活の中でずっと昔から使ってきた薬用植物のオイルです。彼らはこのオイルを生き延びるために何千年も前から色々な用途で使っていました。そういった彼らの伝承、民間医療を用いて、彼らしか知らない方法で抽出し、それを日本に仕入れ、そして日本の中で紹介して広めていき、広めて得た利益の一部を彼らに還元して色々な所に役立ててもらおうという仕事をしてきた訳です。

コパイバというのは、確認されているだけでも35種類が存在しております。その中でもマリマリという最上位品種の物だけを扱って、日本人の特定層に訴えるマーケティングをしています。また、樹を伐採せずにオイルだけを抽出し、商社を挟まず仲間の利益を最大化して、ビジネスの継続性を重視しております。

私たちがやっているソーシャルビジネスというのは、こういうことになるのですが、ソーシャルビジネスというのは別に地域とか対象とか全く問いません。何か社会課題があって、それを克服するというゴールを明確に守っていれば、ソーシャルビジネスの内容です。ゴールさえ明確であれば、自分たちがソーシャルビジネスをしているということになり、ゴールを共有できれば、未来は続いていきます。こういう仕事の仕方や考え方もあるのだなど皆さんの記憶に残って頂ければ嬉しく思います。今日はありがとうございました。

## 次回例会案内

平成29年10月11日（水） 法定休日を含む週のため休会

平成29年10月18日（水） 卓話「私のバスガイド体験記」

名鉄観光バス(株)旅行営業部ドラゴンズパックセンター主任 山下波巳氏